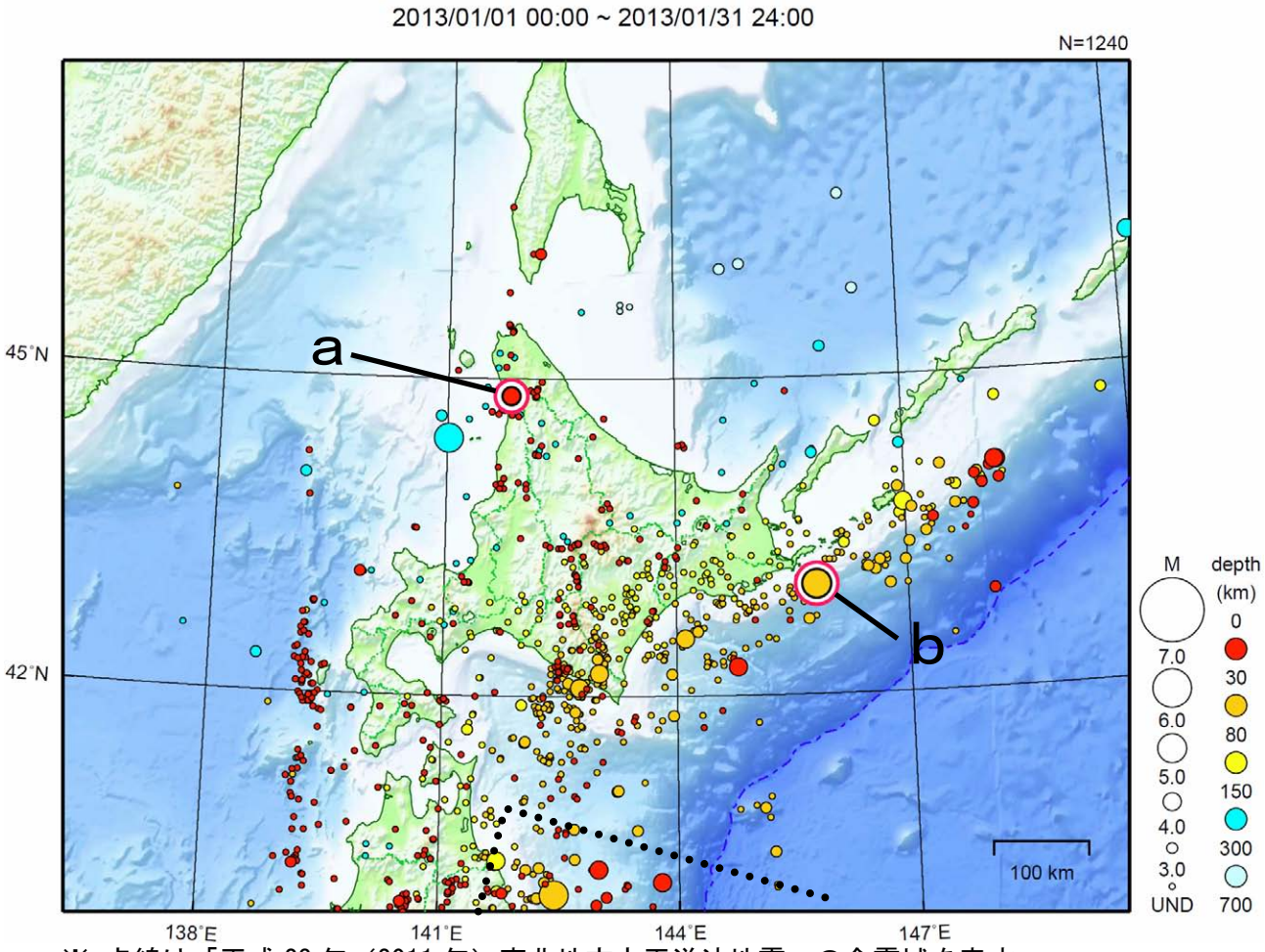
北海道地方



※ 点線は「平成 23 年（2011 年）東北地方太平洋沖地震」の余震域を表す

地形データは日本海洋データセンターの J-EGG500、米国地質調査所の GTOPO30、及び米国国立地球物理データセンターの ETOPO2v2 を使用

ａ） １月３日に留萌地方中北部で M4.8 の地震（最大震度３）が発生した。

ｂ） １月 24 日に根室半島南東沖で M5.2 の地震（最大震度４）が発生した。

（上記期間外）

２月２日に十勝地方南部で M6.5 の地震（最大震度５強）が発生した。

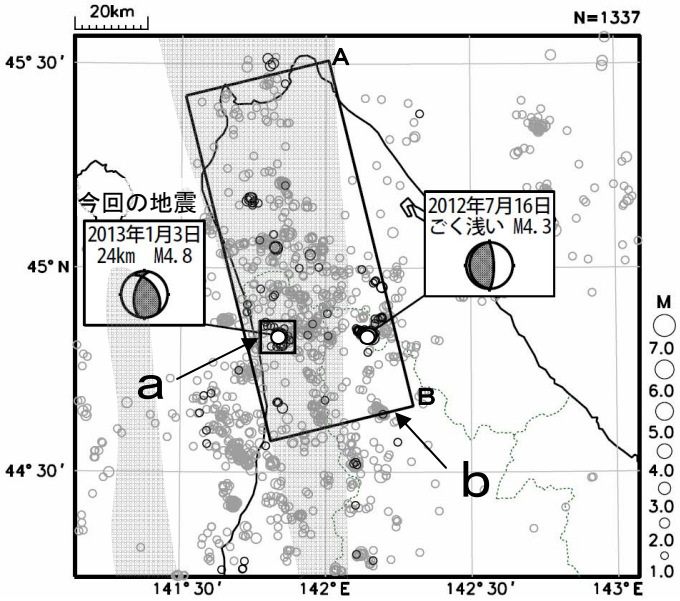
気象庁はこの地震に対して〔十勝地方中部〕で情報発表した。

［上述の地震は M6.0 以上または最大震度４以上、陸域で M4.5 以上かつ最大震度３以上、海域で M5.0 以上かつ最大震度３以上、その他、注目すべき活動のいずれかに該当する地震。］

気象庁・文部科学省

１月３日　留萌地方中北部の地震

震央分布図
（2001 年 10 月１日～2013 年１月 31 日、
深さ０～30km 、M≧1.0）
2012 年７月以降の地震を濃く表示



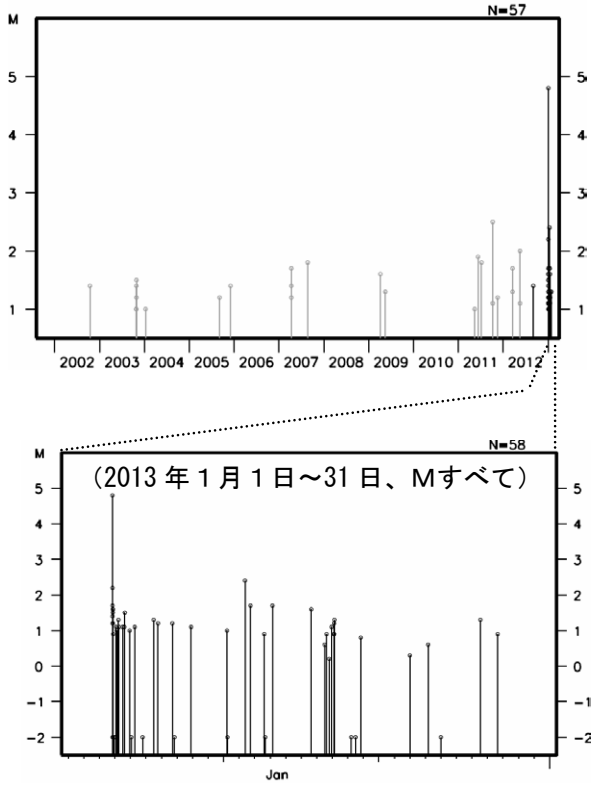
※　陰影の領域は背斜構造から推定した歪み集中帯（岡村（2002）及び「日本海東縁部の地震活動の長期評価」（2003）による）

2013 年１月３日 20 時 14 分に留萌地方中北部の深さ 24km で M4.8 の地震（最大震度３）が発生した。この地震の発震機構は東西方向に圧力軸を持つ逆断層型で、地殻内で発生した地震である。なお、この地震の震源付近（領域ａ）では１月末現在も余震活動が継続している。

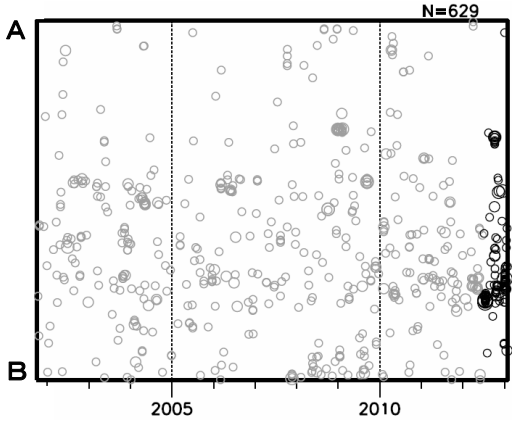
今回の地震の震央周辺では、2012 年７月 15 日から 18 日にかけて、今回の地震から約 20km 東に離れた場所で、M4.0 を超える地震が４回発生（最大規模は７月 16 日の M4.3、最大震度４）しており、この活動以降、領域ｂでは散発的な活動により地震活動が高まっている。

これらの地震は歪み集中帯※やその周辺で多く発生している。

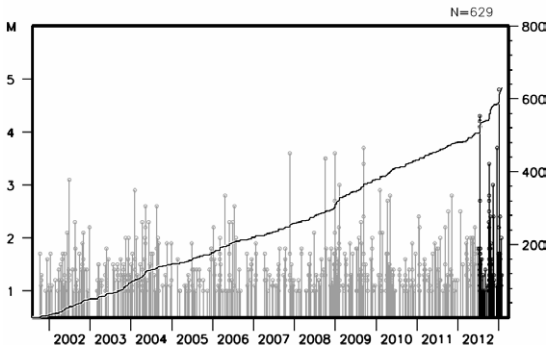
領域ａ内のＭ－Ｔ図



領域ｂ内の時空間分布図（Ａ－Ｂ投影）



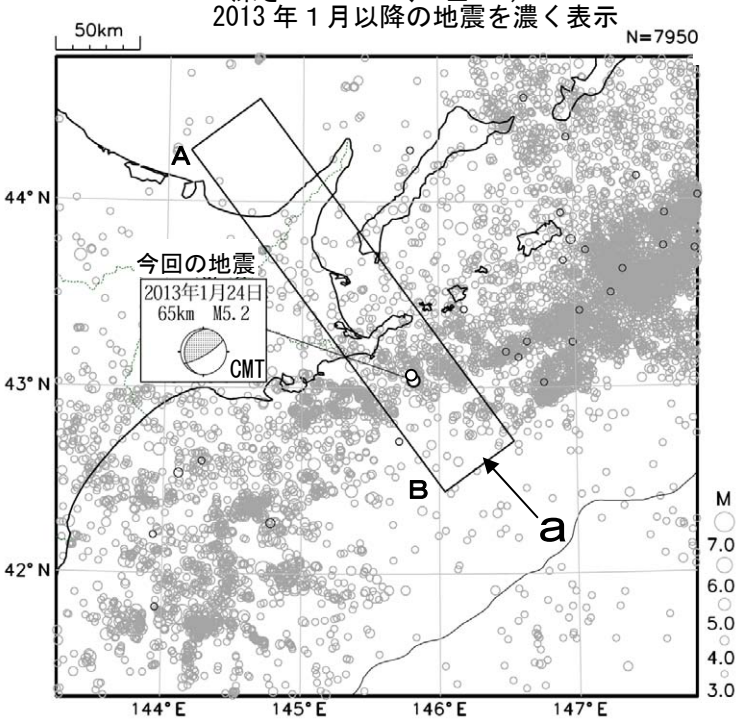
領域ｂ内のＭ－Ｔ図及び回数積算図



気象庁作成

１月 24 日　根室半島南東沖の地震

震央分布図(1997 年 10 月１日～2013 年１月 31 日、
深さ０～200km、M≧3.0)
2013 年１月以降の地震を濃く表示

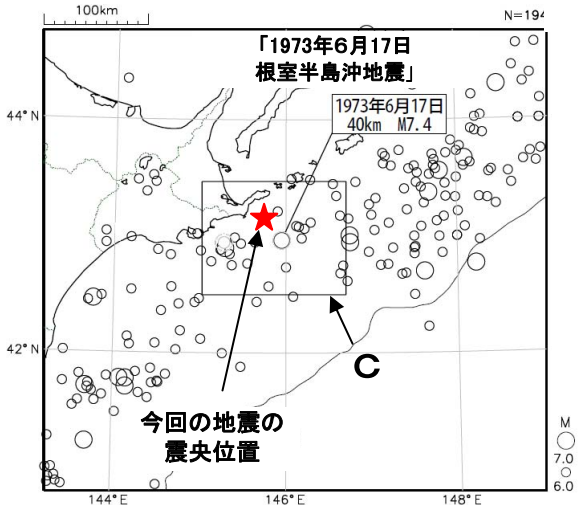


2013年１月24日06時34分に根室半島南東沖の深さ65kmでM5.2の地震（最大震度４）が発生した。この地震の発震機構（CMT解）は太平洋プレートの傾斜方向に張力軸を持つ型で、太平洋プレート内部で発生した。

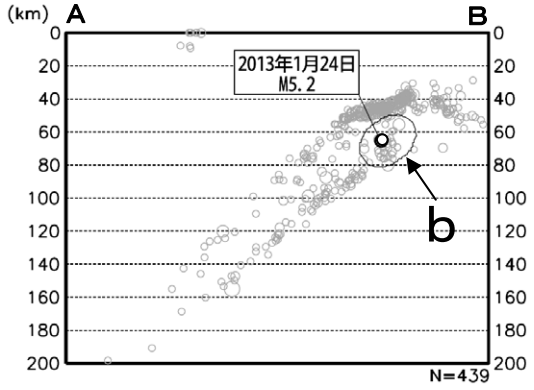
1997年10月以降の活動を見ると、今回の地震の震源付近（領域ｂ）では、M5.0以上の地震が時々発生している。

1923年１月以降の活動を見ると、今回の地震の震央周辺（領域ｃ）では、M6.0以上の地震がしばしば発生している。最大は「1973年６月17日根室半島沖地震」（M7.4、最大震度５、プレート境界の地震）で、根室・釧路地方で負傷者26人等の被害を生じた。また、この地震により津波が発生し、根室市花咲で最大の高さ280cmの津波を観測するなど、北海道から関東地方にかけての太平洋沿岸で津波を観測した（「最新版　日本被害地震総覧」による）。

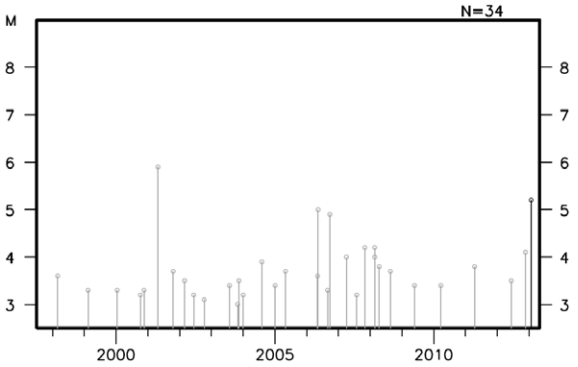
震央分布図
(1923 年１月１日～2013 年１月 31 日、
深さ０～100km、M≧6.0)



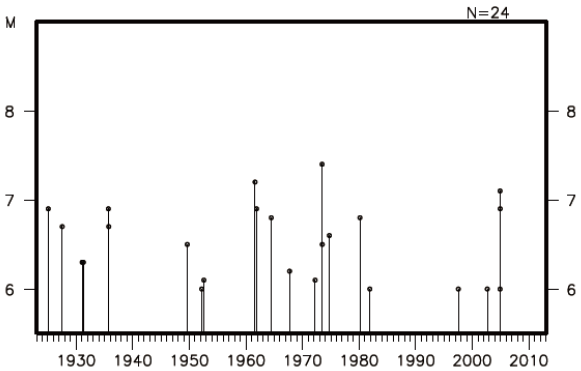
領域ａ内の断面図（Ａ－Ｂ投影）



領域ｂ内のＭ－Ｔ図



領域ｃ内のＭ－Ｔ図



気象庁作成